

日交研シリーズ A-619

平成 25 年度自主研究プロジェクト

「子育て世帯の生活の質向上に資する都市と交通のあり方」

刊行：2015 年 2 月

子育て世帯の生活の質向上に資する都市と交通のあり方に関する研究
Cities and Transportation Realizing Diverse Lifestyles of Child-Raising Households

主査 大森宣暁（東京大学准教授）
Nobuaki OHMORI

要 旨

少子高齢社会に直面している我が国において、子育て世帯の社会参加を支援し、少子化に歯止めをかけるためにも、妊婦、乳幼児・児童を持つ子育て中の親および子どもが、安全・安心・快適に外出活動に参加し、多様なライフスタイルを選択できる環境を整備することが重要である。そのためには、「子供連れで外出活動に参加しやすい環境」と「子供を連れずに外出活動に参加しやすい環境」の両者を備えた都市構造および交通システムの実現と、国、地方自治体、民間事業者、NPO 等、職場、子育て世帯、その他の世帯など、多様な主体が適切に連携および役割分担を行うことが重要であると考えられる。昨年度までの研究プロジェクトにおいて、子育て中のバリア、子育て世帯の外出行動、子育てに対する意識、およびそれらの大都市と地方都市による違い等についての理解を深めたが、子育て世帯の多様なライフスタイルを実現するための都市と交通のあり方、多様な主体間の適切な連携・役割分担、そして子育てに対する人々の理解を醸成するための手法の検討等が、研究課題として残されていると認識している。本研究は、乳幼児・児童を持つ子育て世帯が、地域社会で多様なライフスタイルを選択できるために有効な都市と交通のあり方を、都市、交通、建築、福祉、教育等、幅広い視点から総合的かつ具体的に検討することを目的とする。昨年度までの研究成果を踏まえて、引き続き子育て世帯のバリアと行動実態・意識についての理解を深めるとともに、我が国の社会的文化的特性を反映した子育てしやすい都市と交通のあり方の提案に向けた理論的かつ実践的な研究を行う。

計 5 回の研究会を開催した。研究会では、国土交通省、厚生労働省、その他オブザーバーの方々にもご参加頂き、欧州、特にスウェーデンの子育て環境やベビーカー利用者のバス運賃政策に関する視察およびヒアリングの報告、子ども連れ公共交通利用意識の国際比較調査の報告、公共交通でのベビーカー利用のあり方、大規模住宅開発による保育施設整備のあり方、子連れ外出の歴史、横浜市の保育所立地、活動・交通シミュレーター ARIGATO の子育て世帯への適用の可能性等について、多様な視点から議論を行った。また、3 月には、国土交通省関東運輸局、東京都交通局、コンビ株式会社、北極しろくま堂有限会社等のご協力のもと、シンポジウム「子ども連れ外出教室を通して子育てしやすいまちづくりを考える」を主宰した。

キーワード：子育て、生活の質、都市・交通施策

Keywords：Child Rearing, Quality of Life, Urban and Transportation Policy Measures